

基本目標 1. すべての子育て家庭を支える環境づくり	主要課題 (1)地域での子育て支援サービスの充実	施策の方向 すべての子育て家庭に対する子育て支援サービスの充実
----------------------------	--------------------------	---------------------------------

「施策の方向」の評価

乳児家庭全戸訪問については、保健医療課との連携により、訪問家庭の絞り込みなど、効果的な支援に繋がっている。また、ショートステイ、ファミリーサポートセンター、産前・産後ホームヘルパー派遣、さらに出前型一時保育や子育て支援総合センターの一時預かり、幼稚園の預かり保育については、利用者が増加している。一方、トワイライトステイについては、利用に至っていないことから、制度の見直しが必要である。

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成23年度の取り組みと実績	平成23年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
53	乳児家庭全戸訪問	生後4か月までの乳児のいる家庭を訪問し、親子の心身の状況や養育環境等を把握するとともに、育児に関する助言及び子育て支援に関する情報等の提供を行います。	継続	生後4か月までに家庭を全戸訪問 親子の様子を観察 子育て相談 子育てに関する情報提供 訪問完了家庭人数 2,477人 母子保健との連携	4か月までに出会えなかった家庭への対応として、4か月児健康診査の受診結果などの情報とすり合わせ、どちらかで「赤ちゃんとお会えた」という確認を行うため、保健医療課との連携を持った。そのことにより重点訪問を行う家庭が絞り込めた。 訪問担当者が保育士であるので、必要に応じて積極的に保健職との同伴訪問等を行うとともに、支援の必要な家庭を見逃さず支援の導入を図る。	継続して実施する。	子育て支援課
54	ショートステイ	保護者の病気や出産などで子どもの養育ができない場合、児童養護施設と連携し、緊急に対応します。	継続	市内3か所の児童養護施設で実施 利用件数 8件 利用日数 40日	児童養護施設を担当者が訪問し、より連携を図りスムーズな対応が行えた。 ケースによっては、施設が定員いっぱいのため活用できないこともあった。	継続して実施する。 育児負担感の軽減を図るため、要件の拡充と申請時の必要書類を検討する。	子育て支援課
54	トワイライトステイ	保護者の仕事などが恒常的に夜間にわたる家庭の子どもを児童養護施設と連携して預かります。	継続	市内3か所の児童養護施設で実施 利用件数 0件	夜間就労の活用というより保育所・学童保育等の預かり時間帯を超える場合の活用を求められるため、施設までの送迎が困難のためなのか相談にも至らない。	継続して実施する。	子育て支援課
54	ファミリーサポートセンター	地域で育児の手助けをしてほしい依頼会員と手助けをする援助会員の相互援助活動により、仕事と子育ての両立を支援します。	継続	説明会50回(うち出張説明会2回)参加者353人、個人説明7人、1日コース12回 講習会25回 参加者310人 研修会3回 参加者 69人 交流会5回 参加者167人 活動件数 5,818件 新規依頼件数 197件	・市域を14ブロックに分け、地域でもファミリーサポート事業を広める役割を担うサプリーダーを11ブロックで設置した。 ・平成23年度は地域でのファミサポの認知度アップを目指し、各自宅でポスターの掲示や近隣のマンションなどでチラシを配布、特に援助会員の少ない地域での出張説明会を2回開催した。 ・1日コースは、援助依頼を急ぐ方に好評だったので毎月開催し、他の日程より申し込みが多かった。	・引き続きサプリーダーには地域でのファミサポの認知度アップを担っていただき、H24年度は地区交流会の企画・進行を分担し、会員のお友だちも参加できるようにする。 ・急速に依頼会員が増えている彩都地区の出張説明会は、サプリーダーと協力して数回開催する。 ・1日コースは引き続き毎月設定する。	子育て支援課
54	産前・産後ホームヘルパー派遣	産前・産後、体調不良のため家事や育児が困難な家庭や、多胎児を出産した家庭等にホームヘルパーを派遣します。	継続	利用件数 21件	利用件数は、前年比で3件増加した。委託先事業所の協力により、派遣希望日等について概ね利用者の希望に添うことができた。	継続して実施する。	子育て支援課
54	出前型一時保育	子育て世代が、市主催の講演会や審議会等へ参加できるように、保育ボランティアを派遣して一時的に子どもを預かります。	継続	申請件数 313件 派遣実績 276件 保育人数 1,517人	申請件数は前年比で、66件(21.1%)増、派遣実績は102件(40.0%)増。 保育人数は397人(26.2%)の増となった。 平成24年1月から児童発達支援事業所の「すくすく教室」がこども健康センター内に移転したことに伴い派遣場所に加えたことによるものであり、開催について効果が上がっている。 派遣先の増加に伴うボランティアの確保が課題となっている。	継続して実施する。 平成24年4月から「ばら親子教室」がハートフルに移転することに伴い、派遣先として追加する。	子育て支援課

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成23年度の取り組みと実績	平成23年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
54	一時預かり(一時保育)	保護者の急な外出や病気のため、家庭で子どもの保育ができない場合など、一時的に子どもを預かります。	量的充実	(子育て支援総合センター) 登録申請者数 783人 利用者数 2,331人	定員数の内2人は1週間前から予約を入れる事でレスパイト対応がしやすくなった。	空き状況をホームページから確認できるようにする。	子育て支援課
54	一時預かり(一時保育)	保護者の急な外出や病気のため、家庭で子どもの保育ができない場合など、一時的に子どもを預かります。	量的充実	私立保育園20か所で実施した。	一時的な子どもの預かりに効果があったが、一時預かり保育事業の実施には、一定の条件を満たす必要がある一方で、国庫補助事業の要件緩和により、市単独補助を廃止しており、その影響もあって、量的充実に図ることにつながっていない。	国の一時預かり保育事業を実施するためには、保育士や専用スペースの確保、定款の変更が必要となるが、全庁的な補助金の見直しと合わせ、私立保育所等運営補助金のあり方を検討し、量的充実にに向けた方策を研究する。	保育課
54	幼稚園の預かり保育	保護者の希望によって、通常の教育時間を超えて行う預かり保育を実施します。	量的充実	保護者の子育てを支援するため、通常園での預かり保育の時間を1時間延長し17時までとした。また、拡充園での保育終了時間に17時を追加するなど、事業の拡充を行った。 利用者数 延べ22,516人	預かり保育の時間延長や保育終了時間の選択肢を増やしたことにより、利用者の利便性の向上を図ることができ、利用者数は前年比で921人の増加となった。	預かり保育のニーズが高いことから、引き続き事業を継続する。	教育政策課

基本目標 1. すべての子育て家庭を支える環境づくり	主要課題 (1)地域での子育て支援サービスの充実	施策の方向 各種相談機能・情報提供の充実
----------------------------	--------------------------	----------------------

「施策の方向」の評価

各機関が実施する子育てに関する相談については、件数が概ね、増加しており、相談へのニーズは高くなっている。各機関とも、相談窓口の充実に努めるとともに、積極的な広報活動に取り組んでいる。また、子育て相談連絡会を開催することで、情報交換・集約することにより、困難事例の対応にも充実に図っている。一方、子ども本人からの相談は少なく、制度の周知に努める必要がある。

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成23年度の取り組みと実績	平成23年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
54	子育てに関する相談	子育て・しつけ・発達などについて、電話・面接による相談を実施します。相談内容に応じ、専門的機関につなげられるよう関係機関との連携を図ります。	継続	電話相談 514件 面接相談 351件	子育て相談連絡会を開催し、お互いの業務の情報交換を図るとともに、機関の連携を図る。オレンジリボンキャンペーン時等機会を見つけて「こども相談室」の周知を図り、気軽に相談できるよう努める。	継続して実施する。	子育て支援課
54	子育てに関する相談	子育て・しつけ・発達などについて、電話・面接による相談を実施します。相談内容に応じ、専門的機関につなげられるよう関係機関との連携を図ります。	継続	電話・面接による乳幼児の育児・しつけ・発達・保健(予防接種等)の相談を実施した。 電話による相談 3,999件 面接による相談 818件	前年度と比較し、電話相談は42件の減、面接相談は251件の増となっており、顔の見える対応が増えたことは意義がある。	引き続き、市民が相談しやすい窓口になるよう努める。	保健医療課
54	子育てに関する相談	子育て・しつけ・発達などについて、電話・面接による相談を実施します。相談内容に応じ、専門的機関につなげられるよう関係機関との連携を図ります。	継続	子どもを持つ保護者を対象に子どもに関する電話相談等を実施した。 子どもに関する電話相談等32件 子どもに関する面接相談等43件	男女共同参画の視点から、子育てに関するさまざまな悩みについて、面接及び電話相談を実施している。相談を進める中で、DVや児童虐待、女性としての生き方の悩みなど相談内容がさまざまな領域に広がる場合もあることから、他の相談員、関係機関との連携を深める。	複雑・多岐にわたる相談に対応できるように相談員のレベルアップを図るとともに、関係機関との連携を強化する。	人権・男女共生課
54	栄養相談	乳幼児期の食事と栄養等について正しい知識の普及を図ります。	継続	栄養士による相談を実施した。 電話による相談 162件	前年度と比較し、30件の増加がみられた。	引き続き、市民が相談しやすい窓口になるよう努める。	保健医療課
54	保健相談	乳幼児の保護者に対し、乳幼児の心身の健康と育児や予防接種等の相談を実施します。	継続	乳幼児の保護者に対する子育てに関する相談を随時実施した。 電話による相談 600件 面接による相談 30件	前年度と比較し、電話相談は43件の減、面接相談は2件の増となっており、例年と大きく変化はない。	引き続き、市民が相談しやすい窓口になるよう努める。	保健医療課
55	教育相談	児童、生徒の学習、性格、行動、身体、発達、進路等の教育に関する、電話・面接による相談を実施します。	継続	電話相談件数 217件(保護者、児童・生徒) 面接相談(心理的な問題の解決と援助)件数 83件 相談回数 のべ1,563回(保護者、児童・生徒)	電話相談(対H22)は ほぼ変化なく取り組んでいる。面接相談(対H22) 件数+18.5% のべ件数+3.0% 相談ニーズは増えている。学校とのケース会議も24回行い、連携して対応することができた。	・市民への周知を図り、利用しやすい窓口として充実に努める。 ・相談受付後、迅速に対応できるように工夫する。また、必要に応じて学校とケース会議を行うなどの連携をより一層強化する。	教育センター

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成23年度の取り組みと実績	平成23年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
55	子ども本人からの相談	子ども本人からのいじめ等の悩み相談を実施します。	継続	小学生5人 中学生0人	・子育てをする母親以外にも、それを支えたり代役となっている祖母の相談が増えている。 ・子ども自身の相談は、カードを配った時には数件あるが、他の時期は少ない。特に、保護者からの相談は多いのに、中学生自らの相談は少なく、課題が見えている。	・子どもへの周知を徹底し、利用しやすい窓口として充実を図る。 ・いじめを受けているという相談だけでなく、第三者の相談にも焦点を当てて、学校での周知を進めていく。	教育センター
55	言語障害児教育相談	ことばの遅れ、吃音、言語障害などことばの問題についての相談・指導を実施します。	継続	就学前の6歳児を主に継続的に指導を行った。(101件、のべ857回)その中で発達障がいのある幼児への指導も増えている。また、電話相談が9件あった。	参加人数は11件(+12.2%)、また、指導回数も132回(+18.2%)増加した。公立幼稚園から紹介されることが増え、巡回心理士と情報交換して指導にあたることができた。	・市民への周知を図り、利用しやすい窓口として充実を目指す。 ・相談受付後、待機待ち解消に努めるため迅速に対応できるように工夫する。また、私立幼稚園や保育園、関係機関との連携をより一層強化する。	教育センター
55	女性・男性のための相談	性別に関わる悩みや不安等に幅広く対応できるよう相談を実施します。	継続	女性を対象に、各種相談業務を実施した。 女性・電話・DV・法律相談等 相談件数2,011件 男性電話 相談件数16件	女性が抱える悩みや不安等女性全般に関わる相談に幅広く対応できる窓口として、女性相談、DV相談、法律相談等の相談業務の充実を図るとともに、関係機関との連携を深める。	複雑・多岐にわたる相談に対応できるように相談員のレベルアップを図るとともに、相談日、時間帯等の拡充を図る。	人権・男女共生課
55	子育てに関する情報発信	保育サービスや子育て支援に関する情報を掲載した冊子を作成・配布します。ホームページでも積極的に情報を発信します。	継続	子育てハンドブック(情報編)1万部印刷・発行。 母子健康手帳交付時に子育てハンドブック(情報編)および(育児編)を配付。 子育てハンドブック・つどいの広場情報・子育て支援団体イベントカレンダー等、ホームページで配信。 子育て支援総合センター情報誌「Kokoねっと」を年4回発行。(1,600部)各機関での配布。	子育て支援団体連絡会がすべての地区で開催され、地域での子育て支援団体イベントカレンダーの掲載が1カ所増加する。	継続して実施する。 一時保育の予約状況がホームページや携帯電話から検索できるよう図る。	子育て支援課

基本目標 1. すべての子育て家庭を支える環境づくり	主要課題 (1)地域での子育て支援サービスの充実	施策の方向 親子交流の場の充実
----------------------------	--------------------------	-----------------

「施策の方向」の評価

各事業における実施回数や実施曜日等の見直しにより参加者が増加しており、親同士の交流の機会となるなど、効果が上がっている。

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容			行動目標	平成23年度の取り組みと実績	平成23年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
掲載ページ	事業	内容					
55	7・8か月児親子交流	7・8か月の子どもと保護者同士の交流を深める場を提供します。	継続	・開催場所26カ所 年間参加人数 親951人 子1,012人	開催場所やポスター掲示場所等再度検討するとともに、乳児家庭全戸訪問時や「あかちゃんあそび」の開催時においても積極的に周知を行い、参加人数が増えた。 開催回数を減らし、交流に適した集客を図った。 開催場所によっては、交流に適した人数が集まらないところもあるためより一層の周知が必要である。	継続して実施する。 より有効に展開できるよう、開催場所・開催日時を調整をしていく。 子育て支援団体連絡会のイベントカレンダー等周知できるものを有効に活用する。	子育て支援課
55	地域子育て支援拠点事業	保育所や幼稚園に通っていない子どもと保護者が、気軽に集い、自由に遊べる場を提供します。	量的充実	あそびのひろば 1,504組 子育て講座 81組 koko 子育て・子育てくらぶ 266組 わくわくびっくり箱 157組	親子教室の名称を「koko(子育て・子育て)くらぶ」に変更。また、対象年齢の幅を狭める事で落選者が減った。応募数の多い年齢のクラスや募集組数を増やした事で前年度に比べ、55組参加が増えた。 7か所の地域子育て支援センターが行っている支援が重なり薄くならないよう情報交流を図る。 あそびのひろばを2か所増やし、合計8か所で実施した事で前年度に比べ、187組参加が増えた。	公私立地域子育て支援センター7か所で地域割をし、利用者にとってどの地域でも支援が充実するよう努める。	子育て支援課
55	保育所地域開放	保育所を開放し、在宅の親子と保育所の子どもたちや地域の人々との交流を促進します。家に閉じこもりがちな子育てをする保護者への支援を図ります。	質的充実	10か所の保育所が毎週1回程度「ともだち広場」と称して、地域開放を478回実施。 保育所によって差はあるが、1か所1年間の参加総数は親子で860人。 また、その中での子育て相談件数は10か所総計179件である。	参加した保護者の交流を持つきっかけとなっている。 看護師・保育士に気軽に相談できるので、今後も実施していくが、空き部屋がないため、雨天や暑い時期の実施が困難である。	継続して行い、場所については今後も工夫をしていく。	保育課
55	赤ちゃんと保護者のつどい	2～3か月の乳児をもつ先輩ママが妊婦に情報提供をしたり、育児に関する悩み等を話し合ったり、友だちづくりをするなど、交流を図る場を提供します。	継続	2・3か月(休日版は2～6か月)の乳児及び保護者を対象に実施した。 平日版 実施回数 24回 参加者数 861人 休日版(通称:育メンのつどい) 実施回数 2回 参加者数 147人	平成23年度は、平日実施に加え、土・日曜日に父親の参加を主体とする育メンのつどいを開催し、父親の子育て参加のきっかけづくりとした。	引き続き、友達づくりや交流の場として実施する。	保健医療課
55	ローズWAM各種親子交流	就学前児童と保護者がリズム遊びや手遊び等で楽しく遊ぶ機会を提供します。	継続	6か月から1歳6か月の子どもと保護者を対象に「よちよちはいはい講座」を実施した。 開催回数 6回 参加者 427人 1歳から就学前の子どもと保護者を対象に「親子でたのしく遊ぼう」を実施した。 開催回数 6回 参加者 297人	親と子どもがリズム遊びや手遊び等で楽しく遊ぶ機会を提供するとともに、親同士の交流の機会をもつことができた。	男女共同参画の視点を明確にして、イベントを実施していくよう努める。	人権・男女共生課
55	幼稚園地域開放	幼稚園を開放し、在宅の親子と幼稚園の子どもたちや地域の人々との交流を促進します。家に閉じこもりがちな子育てをする保護者への支援を図ります。	量的・質的充実	市立13園で108回実施 参加人数 述べ7,192人	参加人数が昨年比で405人増加となった。核家族化・少子化が進展する中で、在宅の親子と園児、地域の人々との交流を促進することができた。	幼児が安心して屋外で遊べる機会を増やすため、実施回数を増やす。 市立13園で130回実施予定	教育政策課

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成23年度の取り組みと実績	平成23年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
56	青少年センター各種講座	上中祭青少年センター主催事業として、市内全域で土曜日講座・イベントを実施します。	継続	小学生を対象に、子どもセミナーを実施した。 実施回数 36回、参加者 566人	実施回数を8回増加したので、参加者も92人増加した。	今後も、子どもの体験が豊かになる活動の場を設ける。	青少年課

基本目標 1. すべての子育て家庭を支える環境づくり	主要課題 (2)子育て支援ネットワーク化の推進	施策の方向 家庭教育支援の充実
----------------------------	-------------------------	-----------------

「施策の方向」の評価

家庭教育に関する各種の講座については、保護者のニーズに合わせたプログラムの実施や、受講しやすい環境づくりに取り組む必要がある。また、ブックスタートにより、親子のふれあいの機会を提供している。

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成23年度の取り組みと実績	平成23年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
56	親支援プログラムの実施	子どもをもつ保護者が参加者同士で悩みや関心のあることを話し合いながら、子育てについて学び合う学習会を実施します。	継続	1回目 12人 2回目 人数が集まらず、実施できず 3回目 12人 4回目 11人	市民ファシリテーター養成(12名)をして、ファシリテーターの資格を取得中。	継続して実施する。	子育て支援課
56	子育て支援総合センター各種講座	就学前児童の保護者を対象に、乳幼児の生活リズム・家庭での事故防止等をテーマに講座を実施します。	継続	知って得する子育て講座:開催回数 28回、参加人数 410人 出前版 知って得する子育て講座:開催回数 9回、参加人数 101人	・出前型講座の保育人数を10人から15人へ増員したことにより、受講しやすい環境作りに貢献した。 ・ニーズの高い内容を出前型でも開催し、講座回数を増やした。	・ニーズの高い内容の講座回数を増やし実施する。 ・出前版講座の市民への周知方法や開催場所を検討し、参加人数の増加に努める。	子育て支援課
56	家庭教育学級	子どもの健全な育成を支援するため、児童・生徒をもつ親に対し、家庭教育の重要性を再認識するとともに、必要な知識と技術について学習する機会を提供します。	継続	市内27小学校 参加人数 854人	開設数は、前年度比1校減である。32小学校中27校ということで、未開設校が5校あった。役員のなり手がなく、会員が集まらず運営が難しい等の状況をかかえる5校に対して、家庭教育支援をどのように実施するかが課題である。	今後は全校開設をめざし、家庭教育学級の重要性・必要性を認識してもらい、開設に向けてどのような支援が必要か検討中である。また未開設校に対して、親まなびサポーターを活用した事業の実施も検討する。	地域教育振興課
56	保護者講座	思春期の子どもをもつ保護者の不安や悩みに応じた講座を実施します。	継続	開催回数 全2回 参加人数 延べ55人	参加者数は、前年度比34人減少した。これは前年度3回講座としていたのを、平成23年度は2回としたためである。講座回数は企画内容により減としたが、保護者のニーズによりこたえられるよう、講師とも企画段階で十分に打ち合わせをし、思春期の子どもたちの特徴やコミュニケーションのコツ等についての講座とし、結果好評であった。引き続き、参加者のニーズの把握が課題である。	今後も、アンケート結果を反映し、参加しやすい日時の設定、参加者により役立つ内容の企画に努める。	地域教育振興課
56	家庭教育セミナー	家庭の教育力向上を支援するため、家庭教育ノート等に基づき、家庭において保護者が子どもに接する態度・方法などを学習する機会を提供します。	継続	開催回数 全3回 参加人数 延べ43人	参加者数は、前年度比26人減少した。周知不足を原因と考えるが、内容については、保護者に即日常に役立ててもらえるテーマとし、特に「キレない子育てへのヒント」の回では、保護者の悩みに即した講座内容となり、好評であった。引き続き、参加者のニーズの把握が課題である。	今後も、アンケート結果を反映し、参加しやすい日時の設定、参加者により役立つ内容の企画に努める。また、早めの周知に努める。	地域教育振興課
56	ブックスタート	絵本を介した親子のふれあいのために、4か月健診を受診する子どもを対象に、絵本を配付します。	継続	絵本配付冊数 2,755冊	絵本を介して親子のふれあいを持ってもらい、幼い頃からの読書の大切さを持ってもらう機会となった。	配布する絵本の紹介等を充実させ、継続して実施する。	中央図書館

基本目標 1. すべての子育て家庭を支える環境づくり	主要課題 (2)子育て支援ネットワーク化の推進	施策の方向 子育て相互支援活動への支援
----------------------------	-------------------------	---------------------

「施策の方向」の評価

子育てサークル・グループへの支援としておもちゃの貸出対象を拡大した。また、人材育成の研修については、内容や回数、時間帯など参加者の要望に応えることができた。子育て支援団体のネットワーク化については、市内すべての地域に子育て支援団体連絡会議を立ち上げることができた。

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成23年度の取り組みと実績	平成23年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
57	ファミリー・サポート・センター【再掲】	地域で育児の手助けをしてほしい依頼会員と手助けをする援助会員の相互援助活動により、仕事と子育ての両立を支援します。	継続	説明会50回(うち出張説明会2回)参加者353人、 個人説明7人、1日コース12回 講習会25回 参加者310人 研修会3回 参加者69人 交流会5回 参加者167人 活動件数 5,818件 新規依頼件数 197件	・地域を14ブロックに分け、地域でもファミリーサポート事業を広める役割を担うサプリーダーを11ブロックで設置した。 ・平成23年度は地域でのファミサポの認知度アップを目指し、各自宅でポスターの掲示や近隣のマンションなどでチラシを配布、特に援助会員の少ない地域での出張説明会を2回開催した。 ・1日コースは、援助依頼を急ぐ方に好評だったので毎月開催し、他の日程より申し込みが多かった。	・引き続きサプリーダーには地域でのファミサポの認知度アップを担っていただく。H24年度は地区交流会の企画・進行を分担し、会員のお友だちも参加できるようにする。 ・急速に依頼会員が増えている彩都地区の出張説明会は、サプリーダーと協力して数回開催する。 ・1日コースは引き続き毎月設定する。	子育て支援課
57	子育てサークル・グループ支援	子育てサークルやグループを対象に、子育てサポーターの派遣やおもちゃの貸し出し等を行います。	継続	サポーター派遣 36件 おもちゃ貸出 71件	おもちゃ貸出のちらしを配布。 おもちゃの貸し出しを子育て中の親子から、子育てを支援している団体にも貸し出せるよう拡充した。	継続して実施する。	子育て支援課
57	子育て支援団体のネットワーク化	子育て支援総合センターを中心に、地域における子育て支援活動団体のネットワーク化を推進します。	質的・量的 充実	中央地区 年間5回の連絡会の実施 北地区 年間8回の連絡会の開催、イベント1回 南地区 年間7回の連絡会の実施 西地区 年間1回の連絡会の開催 東地区 年間2回の連絡会の実施	23年度に東と西地区が立ち上がり、市内すべての地域に子育て支援団体連絡会議ができた。今後は連絡会議を構成する団体の再考が必要と思われる。	継続して実施する。	子育て支援課
57	子育て支援の人材育成	地域における子育て支援活動の活性化を図るために、その中心となる人材を育成する研修を実施します。	質的・量的 充実	子育て支援団体スキルアップ連続研修 1月17日～2月3日(6回) 1回目 60人 2回目 35人 3回目 19人 4回目 11人 5回目 20人 6回目 21人	参加者数の多い研修や内容に応じた適正な人数で取り組めるよう、同一内容の研修を2回開催するとともに、開催曜日・時間帯を考慮することで、より参加しやすくなった。また参加者の要望にも応えられた。	継続して実施する。 できるだけ年度前半に開催できるよう努める。	子育て支援課
57	子育て支援関係団体との協働によるイベントの開催	子育て支援に関わる団体や機関との連携・交流を促進するために、協働でイベントを開催します。	質的充実	いばらきkoko(子育て・子育て)フェスティバルを開催 参加者 1,571人	今年度、ローズWAMでのイベントを、人形劇とコンサートに加え映画上映を行った。 1日の3イベントは時間的にも調整が困難であった。	継続して実施する。 ローズWAMでのイベントを従来の人形劇とコンサートに絞り行う。	子育て支援課
57	民生委員・児童委員、主任児童委員活動の支援	民生委員・児童委員、主任児童委員による児童に関する相談・指導助言等の活動を支援します。	継続	相談・支援件数 10,982件 うち子どもに関する相談・支援件数 3,916件	2小学校区の公民館に相談窓口を設け、地区の民生委員・児童委員及び主任児童委員が地域の福祉に関する相談に応じているが、子どもに関する相談は少ない、さらなる周知が必要である。 なお、民生委員・児童委員及び主任児童委員による全体の相談・支援件数は昨年度より減少しているもの子どもに関する相談支援件数は増加している。	継続して実施する。	福祉政策課

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成23年度の取り組みと実績	平成23年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
57	こども会等の指導者の育成	子どもの健全な心身の育成を進めていくために、こども会等の指導者の育成や資質・指導力の向上を図るため、研修を実施します。	継続	市全体のこども会を対象とした行事に向けての、育成者への指導者研修・講習会を実施した。 キックベースボール実技講習会:6人 こども会育成者研修会(百人一首):22人	参加者数は、若干減少したものの、行事に参加しようとする意欲は感じることができた。	研修会・講習会の内容や周知方法を工夫する。	青少年課
57	家庭教育学級指導者の研修	指導者の認識、資質の向上を図るための研修を実施します。研修内容、形式、講師の選定等について、より効果的な研修成果が得られるよう工夫します。	質的充実	開催回数 全3回 参加人数 延べ120人	参加者数は、前年度比18人の減であった。これは、参加学級数が2学級減ったため、また1学級ごとの参加者数が減ったためである。内容については、例年「会議の進め方」をテーマとした研修が好評であったため、平成23年度についても同テーマで実施し、講師をかえることで、新たな視点を取り入れた講座となり、学級運営に活かせる等好評であった。引き続き、参加者のニーズの把握が課題である。	今後も、アンケート結果を反映し、学級運営に役立つ内容の企画に努める。周知に努め、全学級から参加者を募る。	地域教育振興課